



2021年3月期

決算説明資料

2021年5月11日

株式会社ジャムコ



技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

SECTION

1

2021年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益-③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結C/F
- 12 | グループ各社の状況
- 13 | 2020年度における当社の対応-①
- 14 | 2020年度における当社の対応-②
- 15 | 2020年度における当社の対応-③

SECTION

2

2021年度計画および今後の展望

- 17 | 2021年度計画策定の前提
- 18 | 2021年度経営計画
- 19 | 業績見通しについて
- 20 | 収益改善の背景
- 21 | 中期経営指標
- 22 | 事業別見通し(航空機内装品セグメント)
- 23 | 事業別見通し(航空機シート セグメント)
- 24 | 事業別見通し(航空機器製造 セグメント)
- 25 | 事業別見通し(航空機整備 セグメント)
- 26 | 取組中のプロジェクト-①
- 27 | 取組中のプロジェクト-②

2021年3月期 決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前期比差異要因
- 06 | 連結経常利益の計画比差異要因
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益-①(前期比/計画比)
- 08 | セグメント別 売上高・経常利益-②(前期比)
- 09 | セグメント別 売上高・経常利益-③(計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結C/F
- 12 | グループ各社の状況
- 13 | 2020年度における当社の対応-①
- 14 | 2020年度における当社の対応-②
- 15 | 2020年度における当社の対応-③

SECTION

1

【単位:百万円】

	FY19 (実績)	FY20 (計画)	FY20 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
売上高	91,535	58,400	50,058	△ 41,477	△ 8,341
売上総利益	10,444	△ 2,300	△ 4,100	△ 14,545	△ 1,800
販管費	8,636	7,900	6,801	△ 1,835	△ 1,098
営業利益	1,807	△ 10,200	△ 10,902	△ 12,709	△ 702
営業外損益	△ 629	△ 900	△ 853	△ 224	46
経常利益	1,178	△ 11,100	△ 11,756	△ 12,934	△ 656
特別損益	△ 279	△ 1,300	△ 4,980	△ 4,701	△ 3,680
税金等調整前当期純利益	898	△ 12,400	△ 16,737	△ 17,635	△ 4,337
親会社株主に帰属する 当期純利益	605	△ 8,800	△ 13,585	△ 14,191	△ 4,785
1株当たり当期純利益 (円)	22.58	△ 328.05	△ 506.46	—	—
売上為替レート (円/USドル)	109.34	105.00	106.64	—	—

(注)計画とは、2020年11月6日の決算発表時の業績予想数値です。

■ 前期比 △129.3億円

FY19実績

FY20実績

	売上総利益	販管費	営業外損益	
	11.7			【単位：億円】
増加				
減少				
	△145.4			△117.5
		+18.3	△2.2	
FY19 経常利益 実績	売上総利益の増減 △145.4	販管費の減少	営業外損益の 費用増加	FY20 経常利益 実績
	△127.0	営業利益の増減		
	△129.3	経常利益の増減		

Point

■ 売上総利益

- 新型コロナウイルス感染症拡大による航空需要の急激な落ち込みにより、当社製品の出荷が減少。

■ 販管費

- 人件費の減少 +5.3億円
- 保証工事費の減少 +4.8億円
- 試験研究費の減少 +3.8億円
- 販売手数料の減少 +2.9億円
- その他 +1.5億円

■ 営業外損益

- 為替差損益の悪化 △3.7億円
- その他 +1.5億円

連結経常利益の計画比差異要因

■ 計画比 △6.5億円

	FY20計画		FY20実績		
	売上総利益	販管費	営業外損益		
	【単位：億円】				
	△111.0			△117.5	
	△18.0	+10.9	+0.4		
■ 増加					
■ 減少					
FY20 経常利益 計画	売上総利益の増減	販管費の減少	営業外損益の費用減少	FY20 経常利益 実績	
	△18.0				
	営業利益の増減				
	△7.0				
	経常利益の増減				
	△6.5				

Point

■ 売上総利益

- 感染症拡大の影響に加え、航空機メーカーの減産スケジュールが更に前倒しで実施されたことや、一部プログラムの出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどから売上高減少

■ 販管費

- 保証工事費の減少 +3.9億円
- 試験研究費の減少 +1.5億円
- 販売手数料の減少 +0.9億円
- その他 +4.6億円

■ 営業外損益

- 為替差損益の悪化 △0.4億円
- その他 +0.8億円

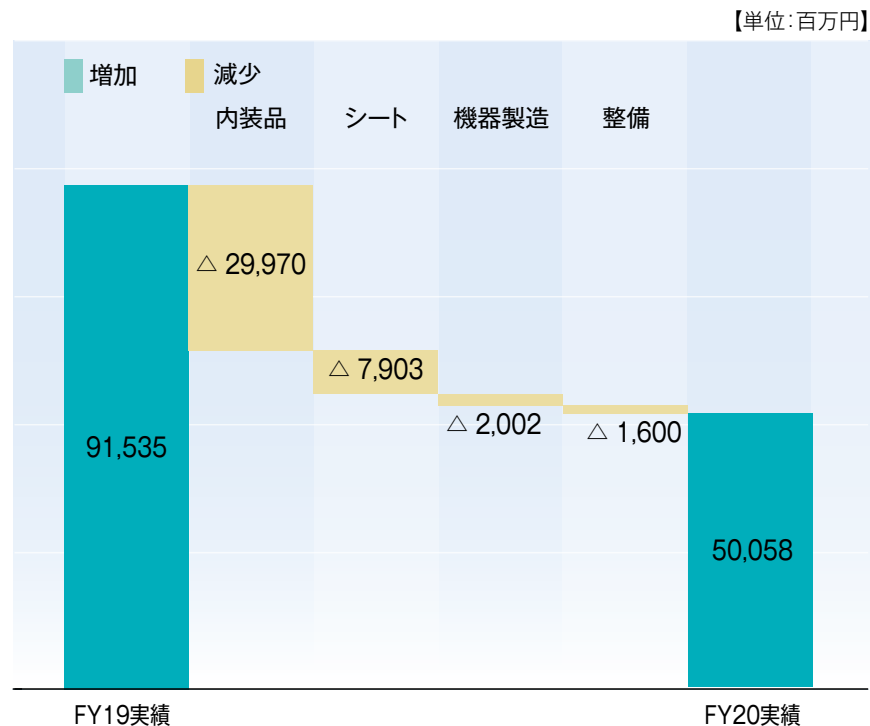
セグメント別 売上高・経常利益-① (前期比/計画比) 

【単位:百万円】

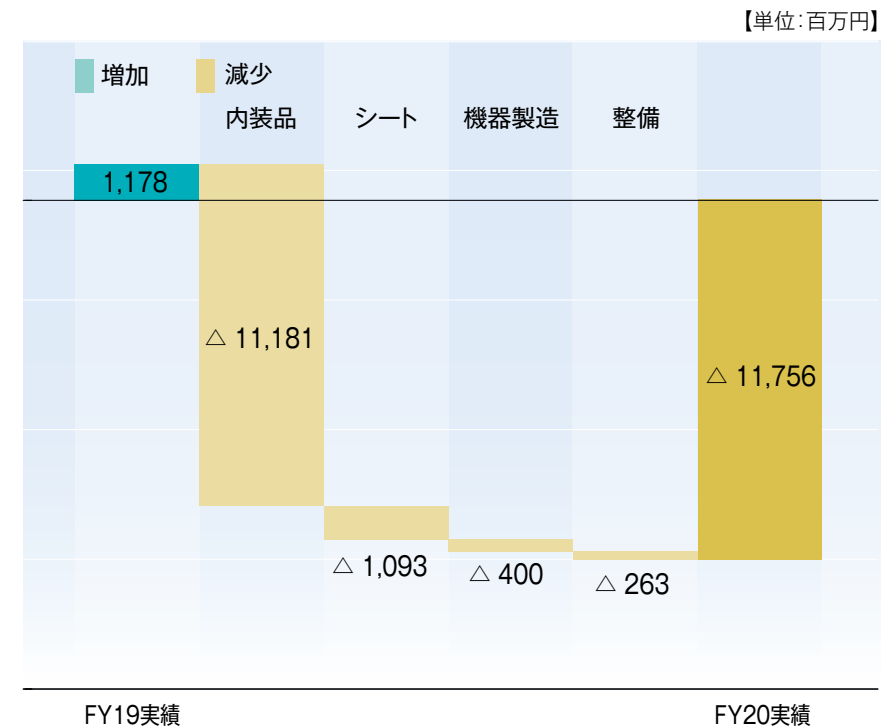
	売上高					経常利益				
	FY19 (実績)	FY20 (計画)	FY20 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)	FY19 (実績)	FY20 (計画)	FY20 (実績)	前期比 (増減)	計画比 (増減)
航空機内装品	61,078	35,700	31,108	△ 29,970	△ 4,591	3,107	△ 8,480	△ 8,073	△ 11,181	406
航空機シート	15,994	10,100	8,090	△ 7,903	△ 2,009	△ 2,499	△ 2,700	△ 3,593	△ 1,093	△ 893
航空機器製造	6,333	5,000	4,330	△ 2,002	△ 669	6	△ 50	△ 394	△ 400	△ 344
航空機整備	8,129	7,600	6,528	△ 1,600	△ 1,071	567	100	304	△ 263	204
その他	0	0	0	0	0	△ 4	0	0	5	0
合計	91,535	58,400	50,058	△ 41,477	△ 8,341	1,178	△ 11,100	△ 11,756	△ 12,934	△ 656

(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

売上高



経常利益



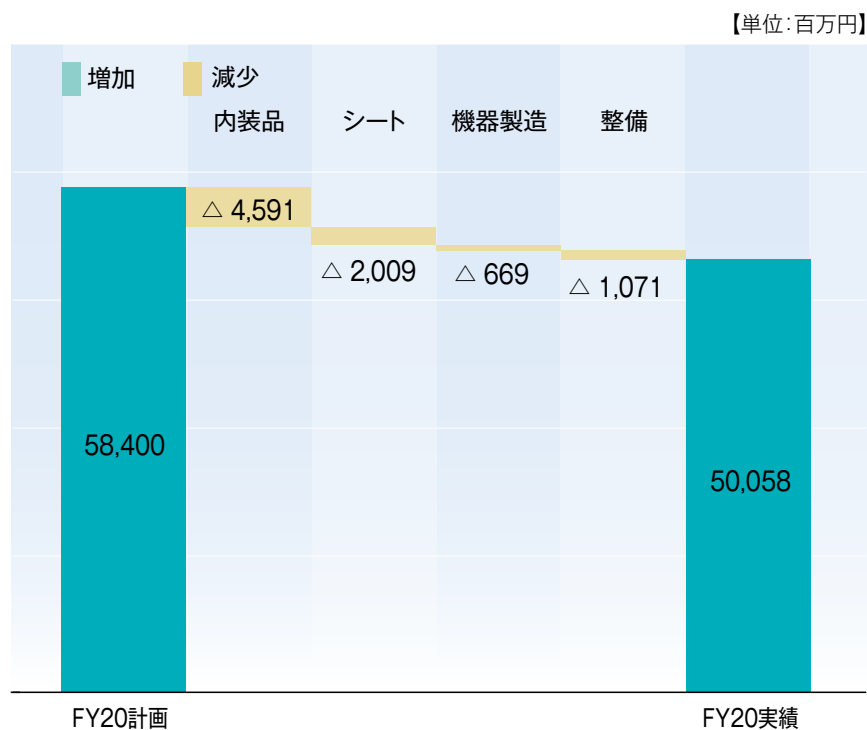
Point

- 内装品は感染症拡大による影響で航空機メーカーの減産により、ギャレー及びラバトリーの出荷が減少
又、航空機の運航が減少したことから、エアライン向けの改修用キットやスペアパーツが減少
- シートは感染症拡大による影響で一部プログラムの出荷が翌期に繰り延べられたことや顧客による一部キャンセルなどにより減少
- 機器製造は民間航空機向けの炭素繊維構造部材や航空機エンジン部品が感染症拡大による影響で減少
- 整備は機体整備においては一部プログラムの出荷が翌期に繰り延べられたことにより減少
又、装備品整備においては感染症拡大による影響でエアラインからのホイール、ブレーキの受注減少

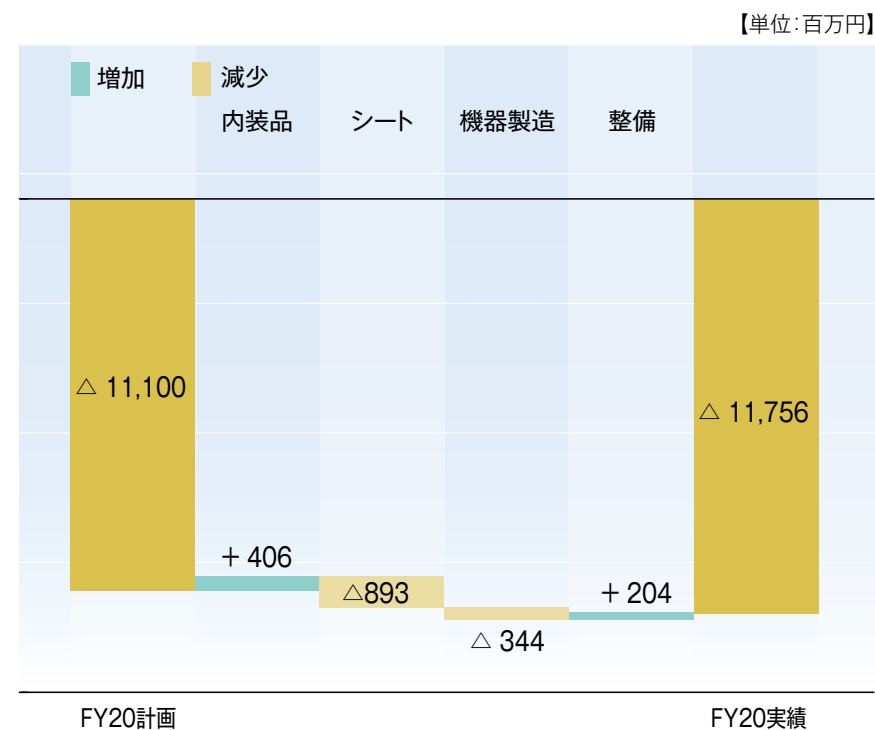
Point

- 内装品、シートは売上高減少により悪化
- 機器製造は民間航空機向けの売上高減少により悪化
- 整備はエアライン向けの売上高減少により悪化

売上高



経常利益



Point

- 内装品は航空機メーカーによる減産スケジュールが更に前倒して実施されたことなどにより減少
- シート、機器製造、整備は一部プログラムの出荷が繰り延べられたことにより減少

Point

- 内装品は売上減少であるものの、経費削減により好転
- シート、機器製造は売上高減少により悪化
- 整備はエアライン向けなどの売上増加により好転

【単位:百万円】

科目	FY19末 2020年3月31日現在	FY20末 2021年3月31日現在	増減
〈資産の部〉			
流動資産			
現金及び預金	8,690	5,275	△ 3,415
受取手形及び売掛金	31,898	21,092	△ 10,806
棚卸資産	52,251	47,408	△ 4,843
その他流動資産	4,890	3,156	△ 1,734
流動資産合計	97,732	76,932	△ 20,799
固定資産			
有形固定資産	13,766	12,782	△ 983
無形固定資産	1,999	1,692	△ 306
投資その他の資産	6,686	9,829	3,142
固定資産合計	22,451	24,303	1,851
資産合計	120,184	101,236	△ 18,947

科目	FY19末 2020年3月31日現在	FY20末 2021年3月31日現在	増減
〈負債の部〉			
流動負債			
支払手形及び買掛金	11,394	3,726	△ 7,667
電子記録債務	9,551	3,482	△ 6,068
短期借入金	36,386	48,118	11,731
1年内返済予定の長期借入金	1,200	1,000	△ 200
前受金	8,644	5,516	△ 3,127
工事損失引当金	3,607	4,102	494
その他流動負債	6,164	5,426	△ 738
流動負債合計	76,949	71,373	△ 5,576
固定負債			
長期借入金	3,500	3,000	△ 500
その他固定負債	9,361	10,346	985
固定負債合計	12,861	13,346	485
負債合計	89,811	84,719	△ 5,091
〈純資産の部〉			
純資産合計	30,373	16,517	△ 13,856
負債純資産合計	120,184	101,236	△ 18,947

Point

- 受取手形及び売掛金は、売上高の急減と売掛金の回収により減少
- 棚卸資産は、発注計画の見直しにより減少

■ 自己資本比率 24.8%→16.0%

【単位:百万円】

	FY19	FY20	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,285	△ 11,615	△ 329
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,570	△ 1,104	1,466
フリー・キャッシュ・フロー	△ 13,856	△ 12,719	1,136
財務活動によるキャッシュ・フロー	16,953	9,581	△ 7,372
現金及び現金同等物の期末残高	7,167	3,946	△ 3,220

Point

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、利益が大きく減少し、前年同様のキャッシュアウト
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資抑制を行い、キャッシュフローは前年比改善

【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニユファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売上高	46,724	2,586	879	558	8,607	464	807	635	712	746	370	107
営業利益	△ 9,446	213	△ 64	68	△ 1,558	△ 66	△ 337	61	△ 25	39	41	3
経常利益	△ 10,009	223	△ 63	66	△ 1,660	△ 55	△ 417	55	△ 25	36	42	3
当期純利益	△ 11,582	△ 131	△ 117	△ 35	△ 1,894	19	△ 457	30	△ 53	23	19	1

(注1) ジャムコアメリカは、エアライン向けの客室改修事業やスペアパーツ販売などが大きく減少
又、今後の見通しを踏まえ、繰延税金資産の一部を取り崩し

(注2) ジャムコシンガポールは、今後の安定的な生産の見通しが立たないことから2021年1月31日解散

規模縮小

① 人員削減

海外子会社を中心とした一時解雇や、希望退職募集等によりグループ全体で約30%の人員削減実施(グループ外出向含む)

② 拠点整理

- ・航空機内装品・機器事業本部における立川製造拠点を廃止
- ・JAMCO SINGAPORE PTE LTD. 解散
- ・(株)宮崎ジャムコの工場集約

③ 経費削減

雇用調整、拠点整理、役員報酬・人件費抑制、委託業務の内製化及びその他の経費削減を行った結果、前年度比119億円削減

資金調達

2021年3月末 連結借入残高:521億円(前年度比110億円増加)
借入枠を230億円追加(なお、追加借入枠230億円の内、35億円使用)

その他

- ① 在庫削減により経営効率化
棚卸資産減少(△48億円)
- ② 懸念事項の処理
損害補償費の計上(特別損失26億円)
製品保証引当金の計上(特別損失12億円)
- ③ コロナ関連損益
助成金収入の計上(特別利益10億円)
新型コロナウイルス感染症関連損失の計上(特別損失17億円)

全社業務プロセス改革プロジェクト(J-LEAD[※])の取組み

- 生産システム改革、品質保証改革、経理財務改革、人財戦略、IT(DX)戦略

※J-LEAD:Jamco Lean Enterprise Accelerated Development

新規開発・受注活動

- コロナ対応の活動としてProject Blue Skyの取組み
 - ①ANA787/777 Lavatory用ハンズフリードアハンドル/ロックをANAと共同開発し、納入中
 - ②シンガポール航空 777客室の貨物用改修を受注、改修完了
- 単通路機向け内装品の拡販
- ビジネスクラス・シート「Venture」の受注

2021年度計画および今後の展望

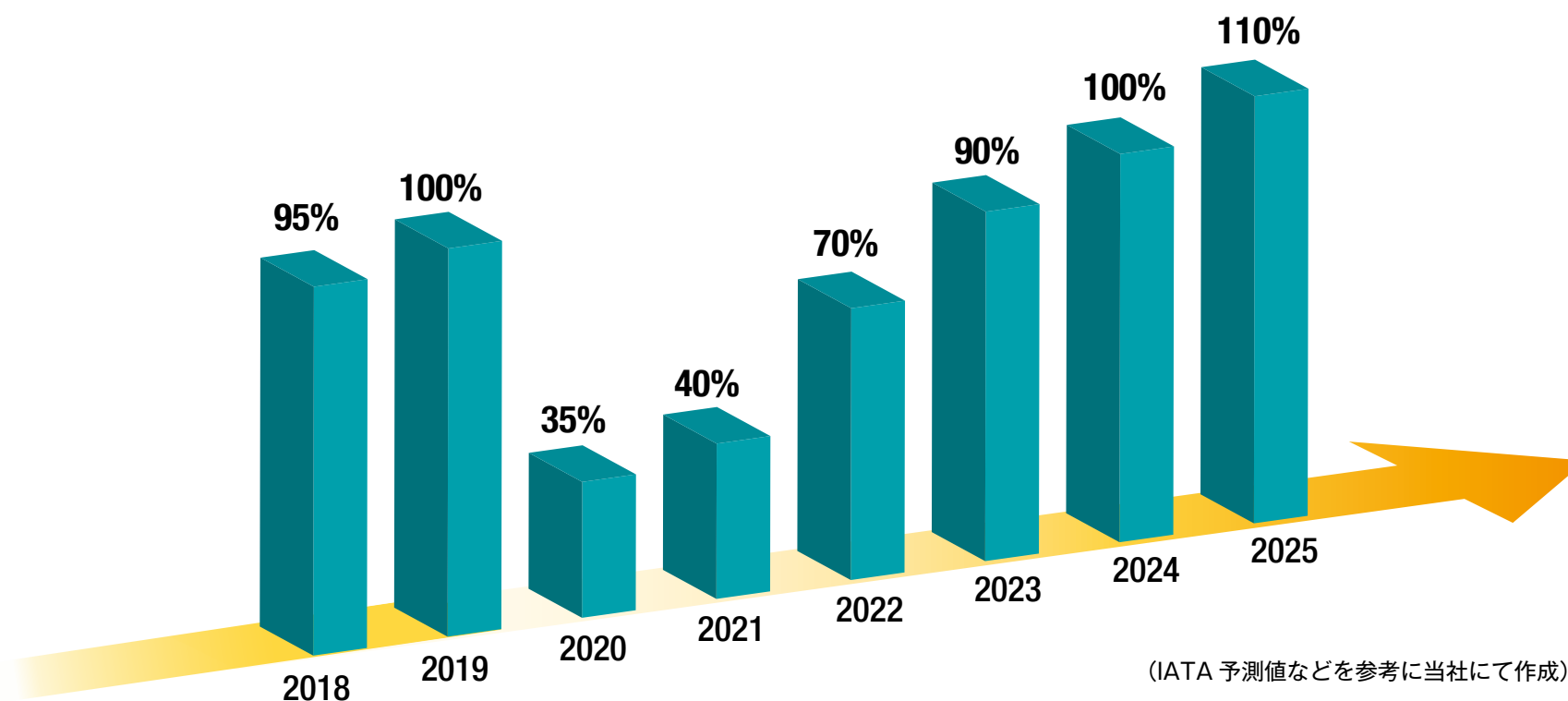
- 17 | 2021年度計画策定の前提
- 18 | 2021年度経営計画
- 19 | 業績見通しについて
- 20 | 収益改善の背景
- 21 | 中期経営指標
- 22 | 事業別見通し(航空機内装品 セグメント)
- 23 | 事業別見通し(航空機シート セグメント)
- 24 | 事業別見通し(航空機器製造 セグメント)
- 25 | 事業別見通し(航空機整備 セグメント)
- 26 | 取組中のプロジェクト-①
- 27 | 取組中のプロジェクト-②

SECTION

2

- IATA(国際航空輸送協会)の予測などをベースに航空旅客需要を予測
 - ◎ 2021年度は、2019年度の4割程度の需要。
 - ◎ コロナ禍以前の規模に需要が回復するのは2024年頃。
- 航空機メーカーの新造機生産は、2021年度は横ばい。2022年度以降、段階的な増産。
- エアライン向けは、スペア部品の需要から徐々に回復。
2021年度後半から客室内改修用内装品や改修用キットの需要が回復。

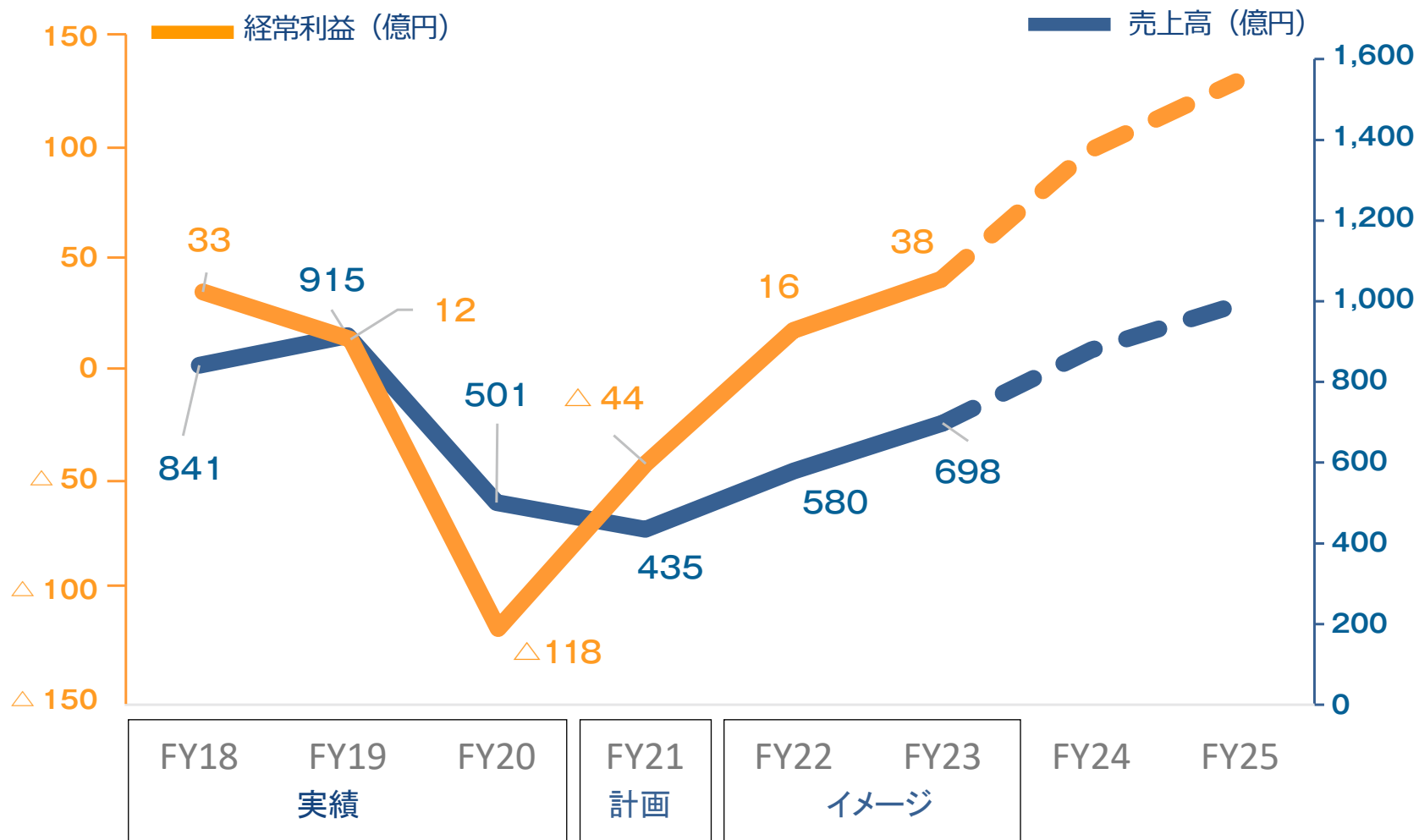
航空旅客需要の回復イメージ (2019年度を100%とする)



【単位:百万円】

	FY20 (実績)	FY21 (計画)	FY22 (イメージ)	FY23 (イメージ)
売上高	50,058	43,500	58,000	69,800
売上総利益	△ 4,100	3,470	—	—
販管費	6,801	7,450	—	—
営業利益	△ 10,902	△ 3,980	1,950	4,230
営業外損益	△ 853	△ 380	—	—
経常利益	△ 11,756	△ 4,360	1,580	3,840
特別損益	△ 4,980	△ 140	—	—
税金等調整前当期純利益	△ 16,737	△ 4,500	—	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 13,585	△ 3,120	1,180	2,780
売上為替レート (円/USドル)	106.64	103.00	103.00	103.00
連結総資産	101,236	94,100	93,400	98,200
営業キャッシュフロー	△ 11,615	3,600	5,500	4,300

業績見通しについて



中期経営方針

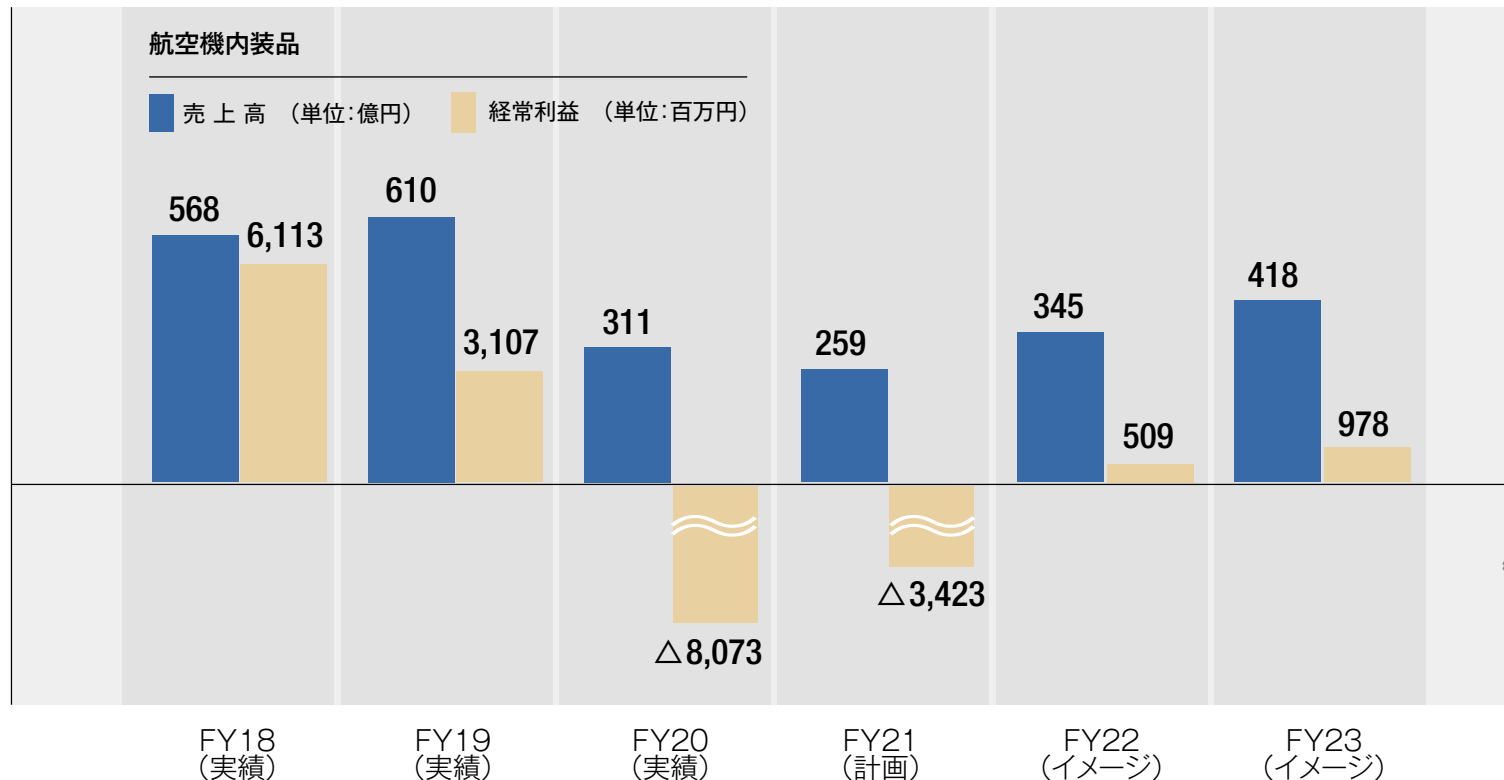
規模の適正化と更なる効率化によって、安定した収益を確保し、事業の多様化・進化を追求する。

- 規模適正化の効果:
 - 2020年度に実施した生産拠点統合、人員削減など規模適正化の効果が2021年度は年間を通じて現れる。(前年度比、約50億円の経費削減効果)
- シート事業の収益性改善:
 - 特注品シートの赤字工事は2020年度で概ね完了。
 - ビジネスクラス・シート「Venture」の拡販等により約15億円／年の収益改善を見込む。
- 航空需要回復の手応え:
 - スペア部品受注、客室改修用内装品などの引合が増加中。
 - 1月以降、100億円を超える内装品及びシートの受注実績。
- 応需能力の維持:
 - 100名超のスキルを有した社員がグループ外へ出向中。
 - 海外製造子会社を含め、需要回復時の設備／人員の復帰余力を維持。
- 業務プロセス改革・DX推進による効率化

- **収益性指標** : **連結経常利益率 7% 以上** → **目標 : 2024年度達成**
- **効率性指標** : **連結ROA 7%以上** → **目標 : 2024年度達成**
- **安全性指標** : **自己資本比率 30%以上** → **目標 : 2025年度達成**
- **配当方針** : **連結配当性向 20~30%** → **早期の復配を目指す**

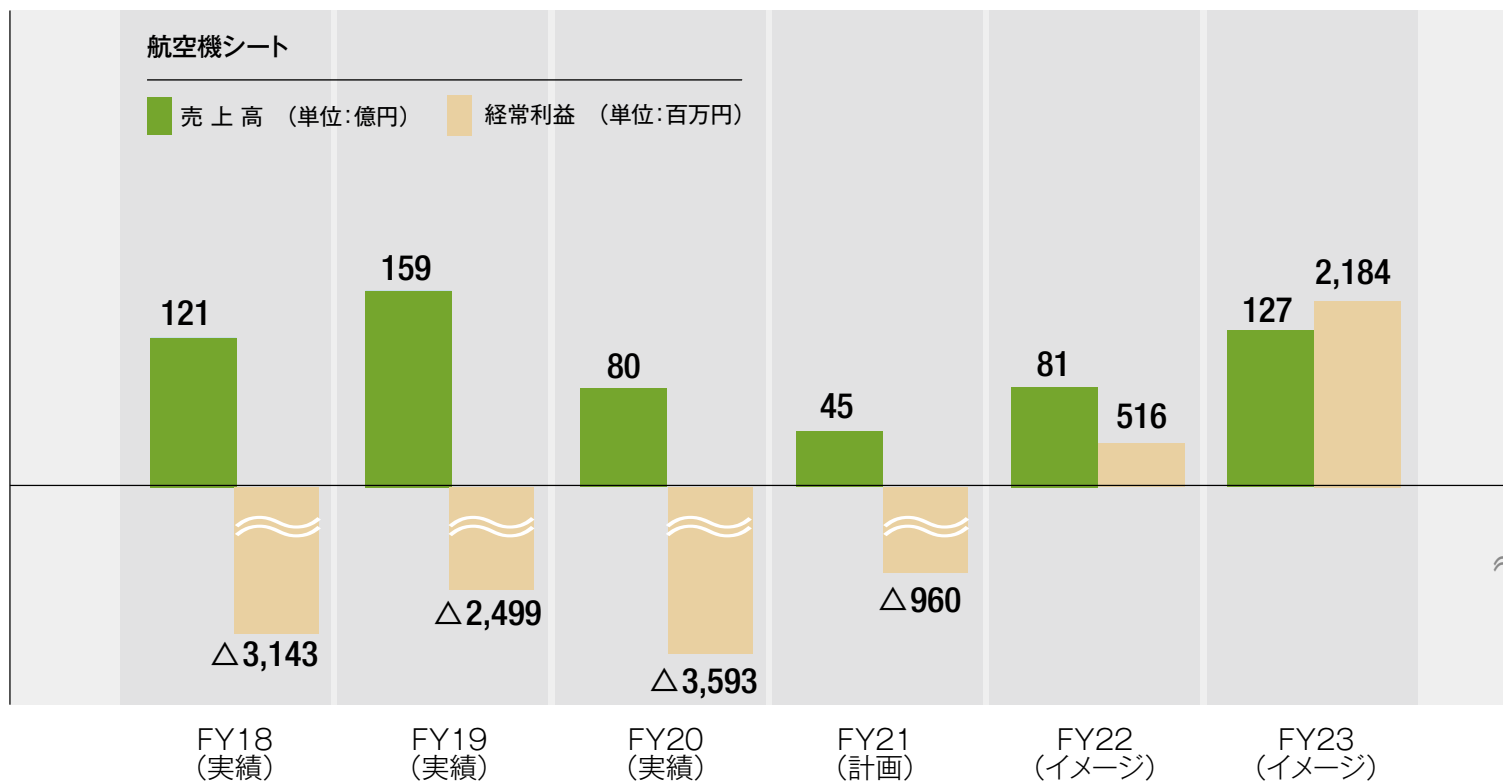
航空旅客需要の回復に合わせた、安定的な売上回復

- 航空機メーカーの新造機生産は、2021年は横ばい。2022年度以降、段階的な増産
- エアライン向けは、スペア部品の需要から徐々に回復。2021年度後半以降、客室内改修用の内装品や改修用キットの需要が回復。



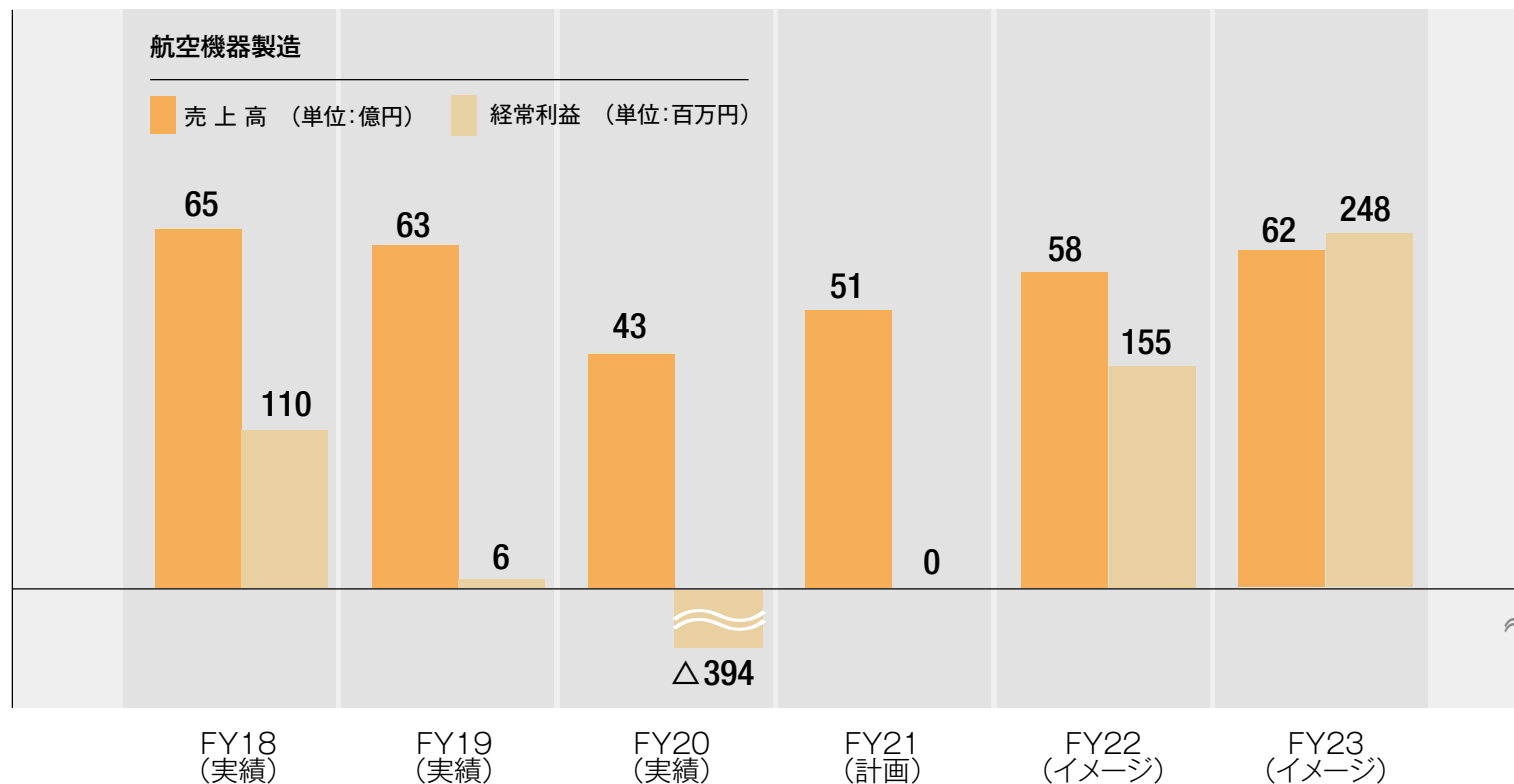
「Venture」の販売拡大による経常利益の黒字化

- 特注シートの赤字工事案件は、2020年度でほぼ出荷完了。
- 2021年度以降は、安定的な収益が見込まれるビジネスクラス・シート「Venture」が主力へ。
2022年度に経常利益黒字化。
- 中期的なポテンシャルとして、「Venture」の他機種展開及び次期ビジネスクラス・シートの市場投入による受注拡大を目指す。



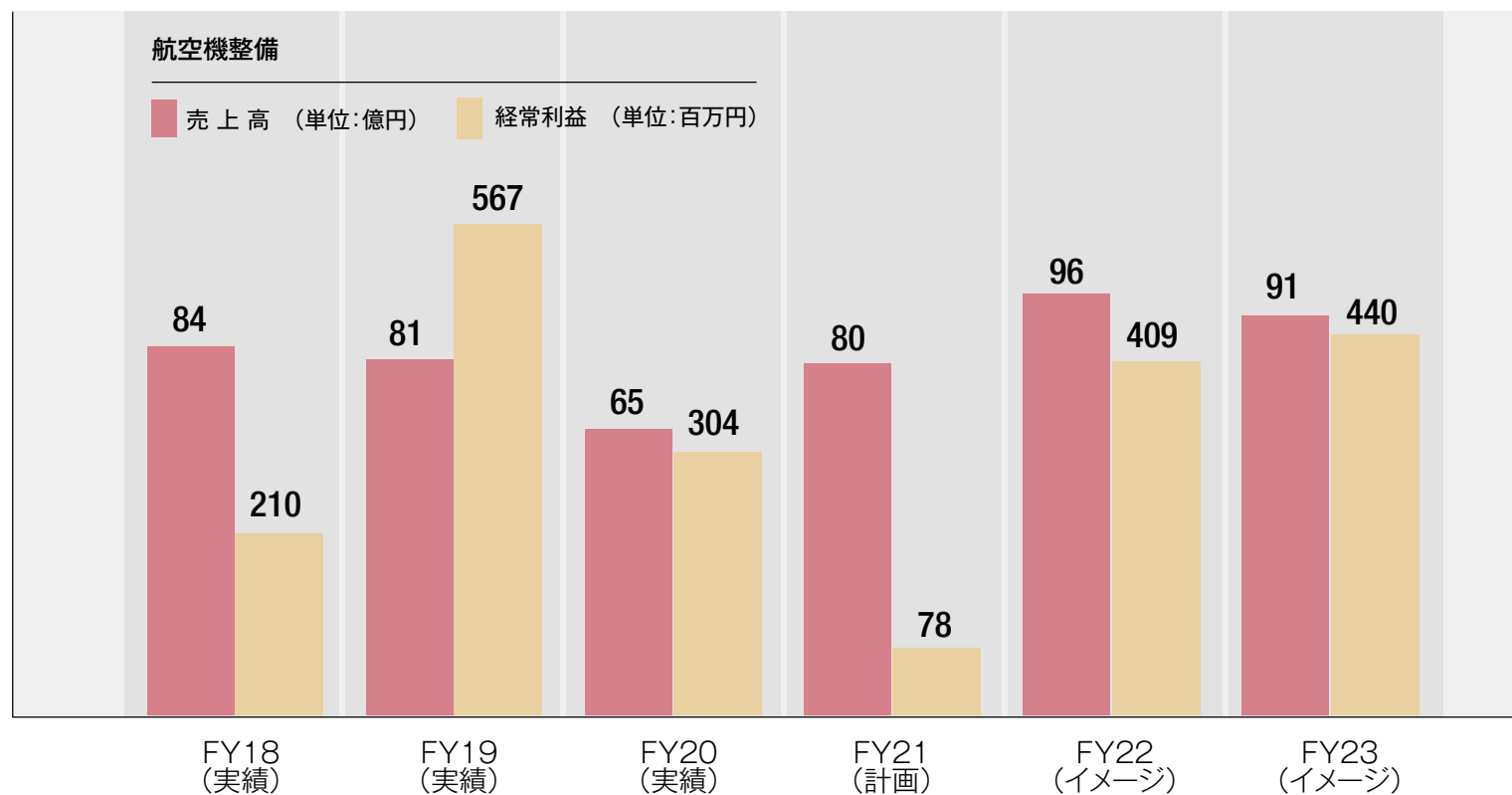
選択と集中による安定的収益構造の確立

- 2020年度は、売上減少により経常損失。
- 2022年度以降、エアバスの機体生産レート逡増に伴う構造部材の売上増加やエンジン部品の売上増加を見込む。



官需・民需のバランスによる安定的な事業構造

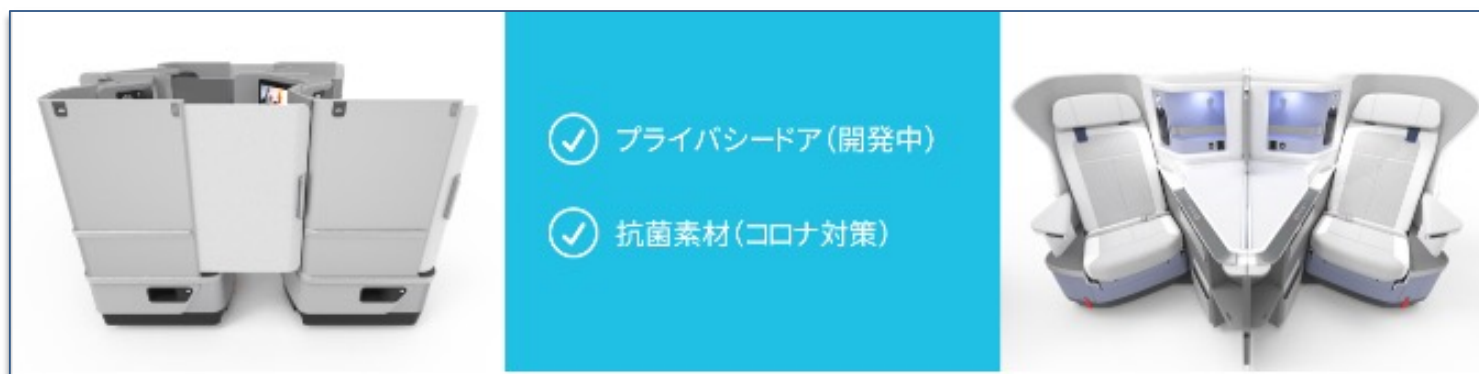
- 新型コロナ禍の影響が残り、2021年度は前年比減益。
- 2022年度以降、エアライン向けビジネスの復調などにより増益。



ビジネスクラス・シートの開発

ビジネスクラス・シート「Venture」

- 既存の787向けシートに加え、777/A350向けなど他機種向け製品も開発。
- プライバシードアの開発、抗菌素材(コロナ対策)などによる付加価値向上。



次期ビジネスクラス・シート 「Quest for Elegance」の開発

- 中・大型機向けに開発。



Project Blue Sky

コロナ禍の対応として、新たに開発・提案した製品やサービス

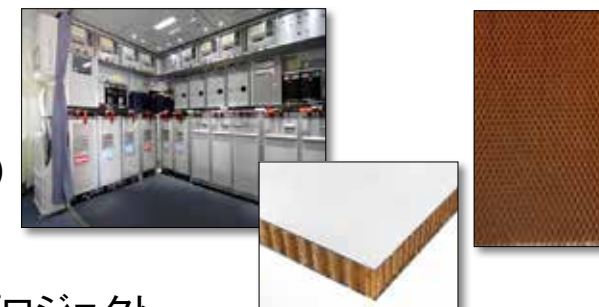
- ANAと共同開発した、ハンズフリードアハンドル／ロックを同社787/777向けに納入。
- シンガポール航空から777客室の貨物用改修工事を受注。改修完了。
- その他機内衛生環境向上につながる製品を含め、機体メーカーやエアライン各社へ提案中。



軽量カーボンハニカムパネル開発

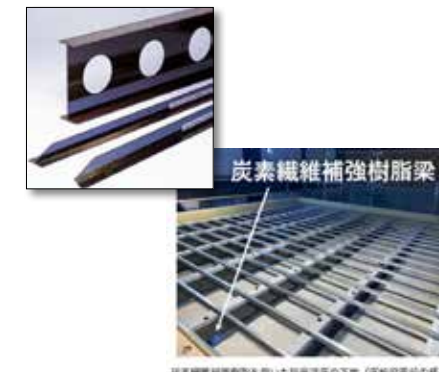
航空機内装品の軽量化→航空機の燃費向上→CO2排出量の削減 (ESG/SDGsへの貢献)

- 強度試験終了し、十分な強度を有することを確認。
- 更なる軽量化とコスト低減を行ったのち、製品化を目指す。
- 777の内装品に使用した場合、1機あたり約360kgの重量減=年間約55kℓの燃費削減(約135tのCO2削減)が期待される。(当社推定値)



その他技術開発プロジェクト

- 軽量複合材構造研究:NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)プロジェクト
 - ・ラティス構造基礎研究→革新的な軽量化を実現する複合材構造様式の基礎研究
 - ・マルチマテリアル基礎研究→金属と複合材の融合により強度を保ち軽量化を目指す基礎研究
 - ・熱可塑CFRP成形技術開発→高効率成形及び、溶着等高度な一体成形を実現する技術開発
- ADP(Advanced Pultrusion)製法CFRPの建材への適用研究
 - ・鉄からCFRP軽量梁への置き換えにより、運搬や施工時の労力と工期の削減、遮音性向上
- CONTRAIL 大気観測プロジェクト
 - ・気象庁気象研究所、(国研)国立環境研究所、(公財)JAL財団、JALとの共同による国際線定期旅客機を利用した温室効果ガスの観測プロジェクト



技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**
ALWAYS FLY TOGETHER



Always Fly Together